

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの事故について

概要

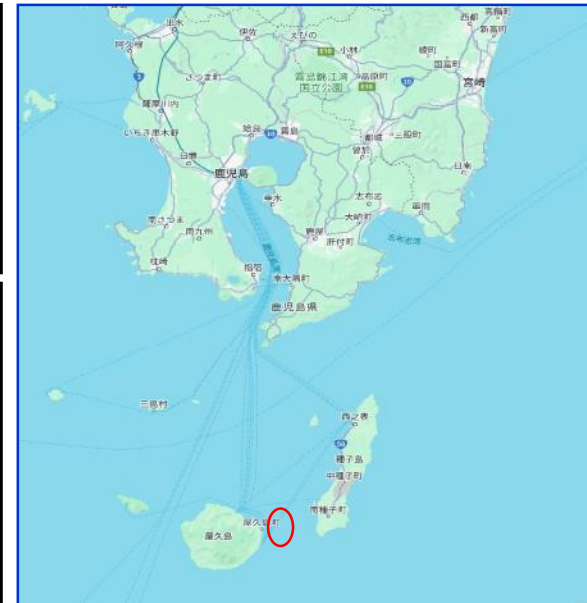
- 令和5年11月29日1440頃
- 鹿児島県屋久島東側の沖合にて、訓練中の米空軍横田基地所属のCV-22オスプレイ1機が墜落
- 乗員は8名(うち1名(嘉手納基地第363情報・監視・偵察航空団所属)の死亡を確認)
- 飛行経路は岩国基地～嘉手納基地

現地における自衛隊及び海上保安庁の対応

- 11月29日 1447頃、海上保安庁第十管区海上保安本部が巡視船・航空機を発動
- 11月29日 1458以降、陸海空自衛隊の航空機等が捜索救難活動を開始
- 11月29日 1600頃、十管区所属の回転翼機が現場海域に到着し、機体の残骸等を確認
- 11月30日 松本防衛大臣政務官が屋久島町長、屋久島漁業組合長、鹿児島県知事を往訪し、お詫び及び事故の説明を実施
 - ※その他、現地調整所において必要な調整を実施
 - ※米軍は、空母カール・ヴィンソンとその航空団、ダイバー、無人機及び捜索救助専門家が含まれる救難部隊を派遣し、航空、海中、海上及び沿岸で捜索救助

日米の主なやりとり

- 11月30日 大和防衛省地方協力局長⇒ラップ在日米軍司令官
- 11月30日 上川外務大臣⇒エマニュエル駐日米国大使
- 11月30日 木原防衛大臣⇒ラップ在日米軍司令官へ要請
国内に配備されたオスプレイについて、捜索救助活動を除き、飛行にかかる安全が確認されてから、飛行を行うよう要請するとともに早期の情報提供を求めた
- 12月1日 米側からの説明
 - ・ CV-22の飛行を行っていない
 - ・ 日本に配備されている全てのオスプレイは、徹底的かつ慎重な整備と安全点検を行った上で運用
 - ・ 事故に関する可能な限り詳細な情報を透明性をもって共有



(出典：米国防総省HP)

全幅	25.8 m
全長	17.4 m
全高	6.73 m
最大離陸重量	約24,000 kg
最大巡航速度	約446 km/h
乗務員+搭乗者数	4名+24名

(出典：米空軍ファクトシート)

(お知らせ)

※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの搜索活動について

令和5年12月3日
防衛省

<p>概要</p>	<p>○ 令和5年11月29日(水)1440頃、鹿児島県屋久島沖の洋上において、在日米軍所属のオスプレイが墜落した旨の通報あり。</p> <p>○ オスプレイの乗組員が行方不明となっていることから、29日(水)1458以降、自衛隊の航空機、艦艇、地上部隊が活動中。</p>
<p>活動部隊</p>	<p>○ 陸上自衛隊第8師団司令部(北熊本)、第42即応機動連隊(北熊本)、第12普通科連隊(国分)、西部方面航空隊(高遊原)</p> <p>○ 海上自衛隊第1航空群(鹿屋)、第212教育航空隊(鹿屋)、第22航空群(大村)、第8護衛隊(佐世保)、第12護衛隊(呉)、第13護衛隊(佐世保)、第1掃海隊(横須賀)、第2掃海隊(佐世保)、第3掃海隊(呉)、第43掃海隊(下関)、佐世保警備隊(佐世保)</p> <p>○ 航空自衛隊西部航空方面隊(春日)、新田原救難隊(新田原)、第603飛行隊(那覇)</p>
<p>連絡調整所</p>	<p>【現地連絡調整所(旧屋久島町役場)】</p> <p>内部部局(地方協力局)、統合幕僚監部、九州・沖縄防衛局及び各部隊の連絡員による関係機関との調整等を実施</p>
<p>活動実績</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>【自衛隊】</p> <p>○ これまでに、海自艦艇により機体の一部らしきもの及び救命いかだ等を揚収</p> <p>○ 3日(日)1400時点の活動実績</p> <p><回転翼></p> <p>SH-60K×1機</p> <p><固定翼></p> <p>U-125A×1機</p> <p><艦艇6隻></p> <ul style="list-style-type: none"> ・護衛艦 「とね」、「のしろ」、「きりさめ」 ・掃海母艦「うらが」 ・掃海艇 「みやじま」、「とよしま」 <p><地上部隊></p> <p>人員約110名、ドローン×1機</p> <p>【海上保安庁】</p> <p>○ 3日(日)1400時点の活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡視船×3隻、航空機×1機 ・潜水士が水中搜索を実施 </div> <div style="flex: 1;"> </div> </div>